

APPEAL

発行 者
JR 東海労関西地本
大阪台車検査車両所分会
2013年 9月13日
NO.42

嘘と疑念で塗り固められた

「新これだけは忘れない」

会社は月に一度、「新これだけは忘れない」の知悉度テストを行っています。しかし、一見、もっともらしく書いてある文章ですが、実際のところ多くの社員が首を傾げることが載っています。

平成3年9月30日に発生したX1編成(291A)事故は、当時、会社が大々的にCMで宣伝していた100系の「シンデレラエクスプレス」で起こった事故です。会社はこの事故の原因を「当時の大阪第三車両所(現在の台検車両所)で担当した作業者の給油忘れ」という「ヒューマンエラー」として結論付けている事象です。ところが、その後、私たちJR東海労の調査の結果本当の事故の原因が判明しました。

それはX1事故と同様の事象がJR西日本の100系車両(V3編成)で起こり、小歯車の軸受けから油漏れが発見されました。

その小歯車のメーカーは光洋精工でX1事故の小歯車と同時期に製造されたものであることから、一斉に関係する車両所及び浜松工場に取り替え作業が指示されました。

事故を起こしたX1編成に取り付けてられていた小歯車の軸受けはメーカーが光洋精工で製造番号はK-2-4-19(平成2年4月に製造)です。

この小歯車の軸受けがV3編成事故の不良品の小歯車の軸受けと同時期に製造されたものであることから、取り替えられました。(ちなみにJR東海で164個、JR西日本で66個)

また、X1事故のような大きな事故が「担当作業者の給油忘れ」の「ヒューマンエラー」であるなら、その担当作業者は当然にも何日間も勤務を外され事情聴取が行われるはずですが。

しかし、担当作業者は一切責任を問われませんでした。

つまり、会社は表向きはX1事故の原因を「担当作業者の給油忘れ」と結論付け、真の原因である「小歯車の軸受けの材質不良」をひた隠しにしたのです。

そして、あくまでも「担当作業者の給油忘れ」の「ヒューマンエラー」として結論付け、現場においては人の手から機械によって管理する定量給油装置を設置することでごまかしているのです。

このように「新これだけは忘れない」に掲載されている事例の中には、作業をよく知る社員なら疑問に思うことが他にも掲載されています。

皆さんは会社によって作られた「ヒューマンエラー」が記載されていること

をどう思いますか？